



第29回例会報告(2月7日)

【出席報告】

・会員数	58名	・出席数	40名	・欠席数	18名
・当日出席率	81.25%	・前々回修正出席率	100%	・18回目	
＜欠席会員＞ 檜垣(俊)、檜垣(巧)、飯沼、菅、川上、小島、越智(節)、重松、竹田					
〔免除会員〕 青野、原(真)、原田、松本、村上(敬)、野間、佐伯、坂本、八木					
＜1/26欠席補填＞(1/12米山選考委員会)越智(務)(1/21今治北)檜垣(圭)、平尾、金森、吉良、小島、近藤、前川、松木、西信、玉井、渡辺(易)、矢野(暢)、吉武(1/22IAC)越智(節)(1/22今治南)天野、原(竜)、檜垣(賢)、檜垣(俊)、檜垣(巧)、飯沼、伊藤、門田、菅、川上、小堀、光宗、村上(修)、村上(裕)、尾越、白石、竹田、田中、戸梶、渡邊(一)					

◇会長報告・ガバナー事務所より、尾越直前代表幹事に、またガバナーエレクト事務所より飯直前ガバナー、松木会員に委嘱状が届いていますので贈呈致します。

◇幹事報告・地区大会の登録変更についてのお知らせ：変更は2月14日まで可能、それ以降は登録料の返金できませんので、ご注意下さい。

- ・ロータリー手帳ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。(希望者のみの配付となります。)
- ・その他回覧物：アイニュース、2006-07年度ロータリー財団年次報告書、他

世界理解月間：会員卓話

飯 忠悟直前ガバナー「バングラデシュの報告」

〔はじめに〕飯直前ガバナーは1月5日から2泊3日の日程で、地区世界社会奉仕小委員会の堀祥二委員長(高松南RC)、森本奈津子委員(徳島南RC)とともにバングラデシュを訪れました。今年も「バングラデシュ ウォーター プロジェクト」を継続するには、現地での信頼できるパートナーが必要だとして、2006年にノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス氏と対面できるよう接触を図ってきました。

〔以下報告要旨〕1月6日(日曜)の正午から、ノーベル平和賞受賞者のユヌス氏に会いました。ご存じの通りユヌス氏は経済学者で、グラミン銀行を創設して、「マイクロクレジット」(無担保小口融資)と呼ばれる新たな手法により貧困層の救済に尽力しました。現地のガバナーは「よく会えたなあ」と驚いていました。気さくに対応してくださりいろいろお願いをしましたが、「積極的に協力する」との回答をいただきました。詳細は「ガバナー月信」(2008.2.1)の9～10頁に掲載されています。ユヌス氏との会談には、元米山奨学生のシャリフ・ウディン君が同席しました。シャリフ君は今やジャハングルノギル大学工学部の教授です。前教授ともども身を惜しまずご協力をいただいて、去年はヒ素除去フィルター付き管井戸100基の予定でしたが、110基の井戸を掘ることができました。110基の井戸で何人が水の恩恵にあずかれるのかと言いますと、3,200人から3,500人の人たちに飲み水を供給することができます。今年は200基の井戸を贈ることにしています。バングラデシュでは成功すると国内に住まないで、海外に居を求める人が多いようです。シャリフ君のように、帰国して国のために働こうという人は余りたくさんいません。成功者は本来なら貧しい人のために奉仕活動をすべきですが、今回の訪問で、われわれがバングラデシュに貢献したものが無駄にならないように、確かな受け入れ窓口ができたということです。教育プログラムの充実のために3万ドルを持っていく用意がありますが、ユヌス氏は「3万ドルは使い切らず預金していただければ、1,000ドル当たり1人の子供の教育に充てる」と言いました。会談は30分の予定が50分になりました。この国は5年すると発展するだろうから、国民に勢いがありました。この国の将来を担う恵まれない子供たちに対して、いろんな意味で教育的な基金やきれいな水を提供することは大切でしょう。帰国直前に3280地区のガバナーやパストガバナーらと会い、1時間ほど食事をして会合を持ちました。「バングラデシュからの米山奨学生は320人になる」と話しますと、先方は「そんなにいるのか」と喜んでいました。そこで「今後は水のプロジェクトなどで一緒にやっつけよう」とのオファーを受けました。バングラデシュだけというわけではないが、来年度も教育資金やサイクロン被害、水プロジェクトなどに援助していきたいと思っています。



＜ゲスト＞元米山奨学生・李欣さん

次回例会(2月14日)

【国際奉仕委員会アワー】国際交流協会 柳瀬初美氏

＜会員誕生祝＞ 戸梶 學氏(2/17) 坂本昌平氏(2/18) 檜垣賢二氏(2/19)

〔献立：国際ホテル〕